

自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して



静岡県教育委員会
教育広報紙

Eジャーナルしずおか

平成27年(2015年)
1月21日
水曜日
第146号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3168 FAX 054-221-3561 E-mail kyouji_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

働 楽 ワーク・ライフ・バランス

～これからの働き方を考えるヒント～

ワーク・ライフ・バランス(以下、WLB)という、仕事中心でなく「仕事以外の生活を重視する」ことであったり、女性のための「子育て支援策」であったり、という印象を持つ方が多いかもしれません。しかし、WLBは特定の生活スタイル、特定の人を対象としたものではなく、個々の仕事や生活の状況に応じて、仕事とともに、仕事以外の「やりたいこと」ができ、充実している状態のことを言います。

◇今なぜWLBなのか?

例えば今、仕事と介護の両立問題は、高齢人口の増加、共働き世帯や未婚者の増加により誰もが直面しうる課題です。介護を理由とした離職を防止し、介護と仕事を両立して働くことができる環境づくりを進めるには、WLBの実現が重要です。

一方で多忙な教育現場ではとても無理だと感じてしまうかもしれません。しかし、すぐにでもできることがあります。それは、職場内で上司や同僚と良好なコミュニケーションを図り、職場を「いきいきとしたよりよい風土」に変えていくことです。それにより、仕事や家庭のことについての助言や支援が受けられ、急な休暇にも周りでフォローし合えるようになります。また、次のことに意識的に努めることで、その効果は更に高まります。

- 相手に関心を持ち、話を積極的に「聴く」
- 言葉だけでなく視線や表情、動作にも気を配る
- 「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉で伝える



静岡県WLBマスコットキャラクター「はたらくだ」

◇どんな効果がある?

WLBの実現は、個人にとって仕事への意欲を高め、良い影響を与えるとともに、それが仕事以外のところへも影響を及ぼし良い循環を生みます。精神面でも仕事以外的心安らく場所があることで仕事に行き詰った時、弱った心の支えとなります。また、仕事の効率化が図られることで、児童・生徒と向き合う時間が増えることにもつながります。皆さんも、WLB実現に向けて、できることから始めてみましょう。

【県労働政策課】

HPで静岡県のWLBを紹介しています。

HP わくわく働楽ナビ 検索



「おむすびせんせい」



初倉南小学校の図書室にて

教員や保護者と協働し、

波部雅代さんが、子育てで読み聞かせの大切さや読み聞かせの仕方等を丁寧に説明しました。波部さんは、読み聞かせは生き生きとした力をお返しします。講演会は質疑応答の時間も大変な盛り

「心」をテーマに実施し、読書活動の機運の向上に取り組みました。今後子ども読書アドバイザーを中心とし、読書活動の一層の充実に取り組みます。

社会教育課
054-221-3123

11月5日、小中学校高等学校の教員を対象として「学習科学の考え方をいかした学び」研修を開催しました。この研修は、総合教育センターと静岡大学が連携して今年度新規に開講したものです。

「学び」をデザイン！「学習科学」とは、認知科学的に「学び」をデザインする、と呼びます。

この展開をデザインできれば、知識の定着や理解の促進につながるようになります。それを可能にしたのが知識構成型ジグソー法です。

研修では、知識構成型ジグソー法を取り入れ「雲の行き方を科学的に説明する」ことを内容とした知識を持っており、最終的に

【総合教育センター】



3種類の資料を持ち寄って、ジグソー活動している様子

「学習科学の考え方をいかした学び」研修から得られたもの

科学における学習研究の成果を活用し、学習の質を向上させることで学校現場における教育を改善することを目的としたものです。人はいかに学ぶのかを認識した上で、子どもたちが「学び」本来の楽しさを感じ、「学び」に主体的に向かうことができるような授業を行うことを目指しています。

そのために、子どもたちがどのように学んでいるかを分析し、子どもたちが主体的に学んでいく仕掛けを考える必要があります。これを、「学びをデザインする」と呼びます。

この展開をデザインできれば、知識の定着や理解の促進につながるようになります。それを可能にしたのが知識構成型ジグソー法です。

21世紀型スキルの育成
この研修では、「アクティブ・ラーニング」につながる学習方法を学び、「コミュニケーションをとり、協働して問題解決にあたる力」など、21世紀に求められる能力の一例を考えるきっかけになりました。

学習科学に基づいて私たちは、ある事柄について話したり、書いたりすることで、それに関連した知識を身に付けています。一方で、知識は他人との協調活動によっても深まり、定着することが分かっています。

授業において、①自分の中に伝えたいことがある②他人と異なる意見を取り入れることにより新しい答えを見つめる③自分の考えを話し合うことで深まる④この展開をデザインできる

最終的な答えを得るためには協議による情報交換が必要になります。最後に全体発表を行います。各グループでは、最初に各自で考えた解答に比べ、より発展的な答えが導き出されていました。

「静岡県子ども読書アドバイザー」活躍中!

各市町の読書活動推進リーダーとしての役割を担う「静岡県子ども読書アドバイザー」その活躍の一例を紹介します。

袋井市立高南小学校で開催された保護者対象の読み聞かせ講習会。講師の袴田成子さんは、絵本の魅力や読み聞かせの意義を、御自身の体験を含めながら語りました。また、「昔話」創作絵本「科学絵本」などジャンル別にお薦めの本を紹介しながら、読み聞かせの実技を伝えました。良い本を子どもに届けることは、大人の役割の一つと話す袴田さん。参加者からは、「読み聞かせのポイントや選書の大切さがよく分かった」などの声がかれました。

同様の取組は、西伊豆町立仁科幼稚園・保育園でも行われています。親子で楽しむ「読み聞かせ」をテーマに実施された教育講演会では、50人を超える保護者や教職員を前に、アドバイザーの波部雅代さんが、子育てで読み聞かせの大切さや読み聞かせの仕方等を丁寧に説明しました。波部さんは、読み聞かせは生き生きとした力をお返しします。講演会は質疑応答の時間も大変な盛り



高南小学校での読み聞かせ講習会

学校図書館を支援

島田市立金谷中学校の袴田成子さんは、絵本の魅力や読み聞かせの意義を、御自身の体験を含めながら語りました。また、「昔話」創作絵本「科学絵本」などジャンル別にお薦めの本を紹介しながら、読み聞かせの実技を伝えました。良い本を子どもに届けることは、大人の役割の一つと話す袴田さん。参加者からは、「読み聞かせのポイントや選書の大切さがよく分かった」などの声がかれました。

学校図書館を支援
沼津市立金岡小学校では、全ての学年で授業にブックトークを取り入れています。講師を務めるのは、藤岡祐子さんと高木敦子さんの両アドバイザーを中心とした地域のボランティアの皆さんです。6年生の授業では「戦争と平和」をテーマに、日本で起きた戦争の様子を知り、平和を願う気持ちを育むことをねらいとして行いました。学校の図書室にある本を使い、講師がそれぞれに思いを児童に語り掛けながら、本の紹介や読み聞かせをして行いました。

実践NOTE

「学びの充実」を核とした教育課程の推進

吉田町立中央小学校 主幹教諭 石間 克俊



机間支辨をする筆者(左)

とにしました。的確に自分の意見・考えを述べたりまとめる力

・問題の解決の仕方を順序立てて説明する力
これらの力を付けるために全教員の共通理解のもと、授業の振り返りに「書く活動」を位置付けました。その際、様々な条件を与えて自分の考えを表現させることにしました。



付けたい力について話し合う(事後研修会)

習熟度別少人数指導の充実

の具体的な姿を捉えることが大切だと実感しました。○グループ協議では、多様な意見が出され参考になります。先輩の先生方と似た意見を持っていると、ちよつと自分が誇らしくなります。

学力を向上させるための大きな原動力となっています。本校では、全教員で授業を参観し、事後研修会を年6回実施しています。授業者は、單元で付けたい力とその力を身に付けた子どもの姿を具体的に示します。事後研修会では、グループに分かれ、付けたい力が付いたかどうか視点をあてた話し合いをします。グループから出された成果と課題を全体で共有します。そして、各グループから出された課題を一つに焦点化し、その課題の解決策を考えます。研修会では、年齢に関係なく一人一人が自分の考えを忌憚なく語り合い、指導法についての視野を広げています。

算数の学習内容は、中学年から扱う領域が増え、定着に差が出てきます。そこで、本年度は中・高学年で習熟度別少人数指導を行うことにしました。この取組により、「算数が好き」「計算問題などに自信をつけた」と85%以上の子どもが答えるようになり、また、学習内容がなかなか定着できなかった子どもが、自分の考えを積極的に発表したり、分らないところを進んで質問したりする姿も増えてきました。

全国学力・学習状況調査と吉田町学力調査の活用

本校での授業改善の取組をいくつか紹介します。



放課後学習支援の様子

調査結果をもとに全教員で学力の現状把握と分析、話し合いを行いました。その結果、以下の力を本校の児童に付けていくこ

校内研修の充実

校内研修は、組織とし

研修後には、若手教員から次のような感想が出されました。○グループ協議では、「付けたい力」と「単元を貫く言語活動」のつながりについて整理、理解することができました。授業を展開する上で、子ども



積極的に発表する子どもが増えてきました

生徒にとって給食の時間とは

生徒たちが、給食の時間をどのように考えているかについてアンケートを実施したところ、「好き」35%、「普通」58%、「ほっとする時間だから」「友だちと楽しく食事ができるから」など、授業での緊張をほぐし、午後からの項目の取組は、4月からの継続した給食指導の積み重ねが重要となります。

給食の時間は、栄養を

実践NOTE

マナーある楽しい給食を目指して

清水町立清水中学校 栄養教諭 吉川 美紀



筆者(右)

本校の教育の中で、生徒たちに身に付けさせたこととして、凡事「返事・挨拶・整頓・清掃・時間を守る」を徹底することがあります。その中で、挨拶・整頓・時間を守る」の三つを、給食の時間に身に付けたいと考えてきました。

前期給食委員会の目標として「残食0のマナーある楽しい給食へ」を掲げました。この目標を達成するための活動として、「第1回マナーキャンペーン」を実施しました。

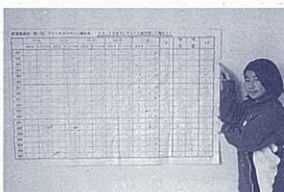
本校の給食時間は、準備から片付けを含め30分間です。短い時間ですが、年間180日ありますので、計画的・継続的に指導することにより、望ましい食習慣の形成や食事を楽しむマナーを身に付けることができるのではないかと考え、取組を行っています。

	()年()組	()日
①	12:30 全員入室完了	
②	12:40 いadakimasu	
	(食べはじめの時間)	
③	12:55 片付け開始(それまでは出歩かない)	
④	13:00 できごころ	
⑤	13:10 ワゴン返却完了	
⑥	箸・スプーンの向き	
⑦	食後の位置が正しいか	
⑧	種類別・4列に食器返却	
⑨	残食0	
⑩	食事のマナー(担任の先生が採点)	
	合計点数	

クラスごとに各項目を○×で合計点を競う

その後、生徒は家庭科の授業で、成長期の中学生に必要な栄養や献立作成について学習しました。その内容は、1日の献立の食品群別摂取量の目安を活用して栄養バランスを考え、調理法、旬彩りなどを考慮し、献立を作りあげるといふものでした。この授業には、私も栄養教諭としてT・T(ティーム・ティーチング)で参画し、生徒たちの献立作成のサポートを行いました。生徒たちは、献立作成の難しさを実感しながらも、自分の健康を維持・増進するには、嗜好だけでなく、栄養バランスが大切であることを理解しました。

現在、第2回マナーキャンペーンを計画しています。次回のリクエスト献立が嗜好だけでなく、この家庭科で学んだことを生かした献立ができあがることを期待しています。



マナーキャンペーン結果発表!

マナーキャンペーンに優勝したクラスは、リクエスト献立を作成できることにしています。生徒が協力してクラスで考えた献立を、栄養教諭が栄養のバランスや食事の内容を検討して給食で提供し、生徒の食に関する意

識の向上につながるよう啓発に努めています。7月に実施した1年生の献立作成では、生徒たちはただ単純に好きな料理を並べていました。その後、生徒は家庭科の授業で、成長期の中学生に必要な栄養や献立作成について学習しました。その内容は、1日の献立の食品群別摂取量の目安を活用して栄養バランスを考え、調理法、旬彩りなどを考慮し、献立を作りあげるといふものでした。この授業には、私も栄養教諭としてT・T(ティーム・ティーチング)で参画し、生徒たちの献立作成のサポートを行いました。生徒たちは、献立作成の難しさを実感しながらも、自分の健康を維持・増進するには、嗜好だけでなく、栄養バランスが大切であることを理解しました。

現在、第2回マナーキャンペーンを計画しています。次回のリクエスト献立が嗜好だけでなく、この家庭科で学んだことを生かした献立ができあがることを期待しています。



マナーを守った楽しい給食

「地域による学校支援活動」文部科学大臣表彰

文部科学省では、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力を向上するため、全国で行われている活動のうち、特に優れた活動に対して、文部科学大臣表彰を行っています。今年度表彰された143団体中、本県からは、次の2団体が表彰されました。



「地域による学校支援活動」文部科学大臣表彰

グローバル人材の育成を 目指す三島北高校

「スーパーグローバルハイスクール」の取組

文部科学省では、グローバルで豊かな湧水群がある三島市では、昭和30年代以降、解決し、様々な国際舞台で活躍できるグローバル・リーダーを高等学

校段階から育成するため、業が一体となって環境保

「スーパーグローバルハイスクール」事業を平成26年度に創設しました。1マが指定の主な理由と本県からは6校が応募し、

高橋が指定されました。三島北高校は、安全な水の確保」を課題研究のテーマとしました。清浄ンガボールの水事情」に

ついて、夏休みに生徒12人と教員5人がシンガポールを訪問しました。ここでは世界水フォーラムなどの国際会議への参加や海外提携先高校との協働研究実施に向け、シンガポール大学の水質検査施設を視察したり、リバー・ハイパー高校の高校生と英語で交流を深めたりしました。参加した生徒たちは、英語力の向上はもちろん、グローバルな発信力を高めることが重要であると痛感しました。

さらに、東レ三島工場の協力による水処理施設の見学や、立教大学と連携した課題基盤型学習なども実施しています。



リバーハイパー高校の生徒との交流

県教育委員会では、三島北高校のこうした先進的な取組が、県内の高校の先行モデルとなることを大いに期待しています。

【高校教育課】

組織の外へ飛び出そう

教育政策課長 山本 知成



当時、私はある財団法人に派遣され、担当業務での必要性から大学院での学び直しを志願しました。

いざ入ってみると、同じ専攻の中では最年長、1年で学位を取るために、テストの準備やレポート、論文の作成で連日午前2時・3時まで作業が続き、精神的なプレッシャーのみならず、体力的にも大変きつかったです。脳裏をよぎります。しかし、それ以上です。それは留學生との交流です。

静岡県に採用されて長い時間が過ぎました。この間、教育委員会も含め11年間を知事部局から離れて働きましたが、中でも、数年前に派遣してもらった大学院での1年間

大学院の学生の3分の2は海外からの留學生で、彼らは秋入学のため、10月に人が入れ替わります。研究室の私のデスクの周囲は、前期がインドネシア・インド・グルジア(ジョージア)・中国・トルコなど、後期はインドネシア・カザフスタン・ベトナム・ポーランド・オーストラリアなどで、日本人はとても少ない状況でした。

校内にはイスラム教を信仰する学生が使う礼拝スペースもあり、1日5回の礼拝に使われていました。また、日本人学生と留學生との交流のため、留学生会、花見などの季節行事や各種の見学ツアーのほか、各自が食べ物を持ち寄るポットラック

パーティなども頻繁に行われました。私の英語は日常会話に事欠くひびいてレベルですが、このような環境のため、周囲の学生と頻繁に交流できました(せざるを得なかったというのが正しいかも)。飲食を共にしてハラールフードなど宗教による食の制約をもつて経験しました。富士山は全員知っていたのに、静岡県を知っている人が一人もいないことも分かり、彼らを伊豆や寸又峽などの温泉に連れて行き、地元の人たちとも交流しました。修学旅行では、それぞれの国に帰国しましたが、フェイスブックなどを通じて頻繁に情報交換し合っています。富士山だけで

人権教育研究指定校 伊東市立天池小学校の実践



「お話しカード」を使った話し合いの工夫

大池小学校では、「自分が好き、友達が好き、大池小が好き、自分の大切さ、友達の大切さを実感する子の育成」という人権教育推進テーマを設定し、「学び部」こころ

は、静岡県のすばらしさに感動して、来日した度、必ず静岡を訪問して、教育委員会にはJICC Aや大学院、民間企業、知事部局など様々な場所への派遣制度があります。通常なら、採用されてから定年まで30年以上あり、1年や2年、俗に言う「他人の飯」を食べるのも悪くないと思います。組織の外で働いて学んだりすることは、そのときは大変でも、振り返ってみると良い経験になり、すばらしい財産となることでしょう。是非積極的にトライしていかげんようか。私もこれからは、友人たちと交流を続け、彼らの国を訪ねて歩くのを楽しみにしています。

学校が抱えている課題、こんな解決方法はいかがですか？ 平成26年度 総合教育センター長期研修員研修報告会

「児童生徒の学力・人間関係力の向上」「特別支援教育の充実」「若手教職員の育成」等、学校は多くの課題を抱えています。このような諸課題を解決するために、6人の小・中学校教員が学校を離れ、1年間研究と研修を深めてきました。その成果を報告します。

開催日時 3月5日(木) 午後1時15分から4時まで
会場 県総合教育センター 大研修室

研修員 (所属校)	研究主題 -サブテーマ-
石井 清記 (伊東市立西小学校)	若手教員の育成と職場学習の充実 -若手教員と先輩教員をつなぐ取組を通して-
佐々木 敦 (藤枝市立高洲中学校)	中学校特別支援学級(自閉症・情緒障害)の生徒の教育的ニーズに応じた学級づくり -「自立活動」の指導を充実させた学級経営の提案-
米山 奈津子 (富士市立岳陽中学校)	生徒がよりよい人間関係を築く指導・支援の在り方 -「教育相談的なかわわり」に焦点を当てた授業を通して-
藤下 恵里 (森町立宮園小学校)	全国学力・学習状況調査結果の活用に係る研究 -身に付けた力を児童も教師も実感できる国語科単元構想の工夫-
大桑 政記 (函南町立函南小学校)	全国学力・学習状況調査結果の活用に係る研究 -「授業改善の視点(押さえる・仕掛ける・確かめる)」に基づく算数科単元構想の工夫-
藤原 靖也 (御前崎市立浜岡東小学校)	全国学力・学習状況調査結果の活用に係る研究 -理科における問題解決の過程を意識した単元構想の工夫-

申込方法 ファクシミリにより参加申込書を送付。参加申込書は、2月に各小・中学校に配付します。また、当センターホームページからもダウンロードできます。

申込期限 2月20日(金)まで
問・申 県総合教育センター専門支援課研修班
TEL0537(24)9720 FAX0537(24)9727

全教育課程を「人権めがね」で見つめ直す
全教職員の共通理解の下、全ての教育活動を人権教育の視点で捉え直し

子どもの変容や成長は、大池小の宮下美由貴校

人権教育の成果を数値化する
各々が目指す姿を明確に設定した上で、自分が好き「友達が好き」「大池小が好き」という三つの視点でアンケートをとり、成果を客観的に捉えるようにしました。

大池小の宮下美由貴校



「教育政策課 人権教育推進室」

